2024.2.19　『五大力さん 2021』を再掲

シリーズ《生き続ける文化財》　：　醍醐寺『五大力さん』

醍醐の花見で有名な醍醐寺では，桜がまだ蕾の 2 月下旬に，大きな餅を持ち上げて力くらべをする「五大力尊仁王会」（通称：五大力さん）が行われます。今年は新型コロナに配慮し，人数を絞っての実施となりましたが，力自慢の人たちが渾身の力を込めてトライしていました。この機会に上醍醐と下醍醐からなる広大な醍醐寺の境内をぐるりと回りました。今回は，世界遺産「古都京都の文化財」の紹介となりますので，あわせてその登録文書も開きましたので，ご案内します。

《ご紹介》

毎年 2 月 23 日に行われる「五大力さん」（五大力尊仁王会）は，五大明王（不動明王，降三世夜叉明王，軍荼利夜叉明王，大威徳夜叉明王，金剛夜叉明王）の力を授かり，その化身・五大力菩薩によって国の平和や国民の幸福を願う行事で，その歴史は醍醐天皇の時代，907 年まで遡ることができるという。

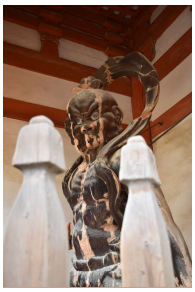
例年，仁王会法要が行なわれる金堂の前では，五大力さんに力を奉納して無病息災，身体堅固を祈り，男性 150 キロ，女性 90 キロの紅白の大鏡餅を抱え上げて，その時間を競う奉納餅上げ大会が行われる。今年は新型コロナに配慮して参加者を絞り，持ち上げ時間も一人 5 分としてその時間を競わなかったが，マスク姿の男女 19 人が力を振り絞って巨大な餅を抱え上げた。

醍醐寺は山上伽藍（上醍醐）と，西麓の平地伽藍（下醍醐）とに分かれている。上醍醐は 874 年から，下醍醐は 904 年から整備が始まり，907 年には勅願寺となった。15 世紀の戦乱期には衰微し，戦災によってほとんどの建物が焼失したが，16 世紀末から 17 世紀初頭にかけて金堂の移築再建，五重塔の修理，三宝院庭園の前身である庭園の築造をはじめとする復興が行われ，現在の姿が形成された。

ご存じの通り，醍醐寺は世界遺産「古都京都の文化財」の 17 構成資産のひとつである。この世界遺産はどのように登録されているのだろうか？

「古都京都の文化財」概要書には，（1）平

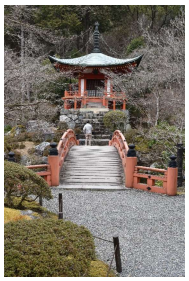
➢　奉納餅上げ大会



➢　金堂前

➢　不動堂・護摩道場

山上の五大
念じて力餅



安時代から江戸時代まで日本の首都が置かれた京都の文化は，日本の建築，造園，都市計画などの発展に大きな影響を与えてきたこと，（2）建造物群は各時代の建築様式や庭園様式の代表例であり，自然環境と融合した景観は日本独自の精神性や文化を表していることが評価されたとある。結局，主題は 10 世紀から 17 世紀にかけての日本の芸術文化を代表する「建築」と，世界的な庭園景観に影響を与えた「庭園」にあるというわけだ。

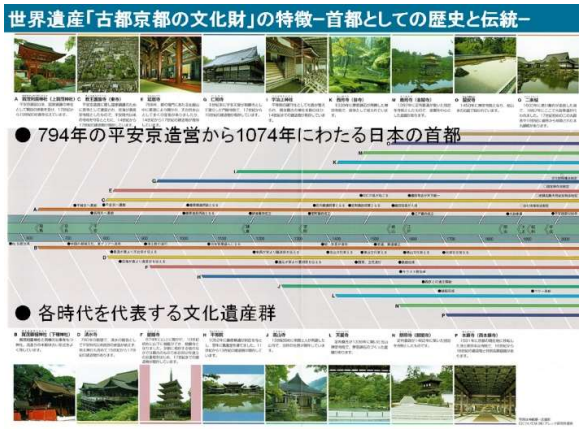
確かに，上醍醐の薬師堂と清瀧宮拝殿，下醍醐の五重塔と金堂，そして三宝院の殿堂表書院と唐門の計 6 棟は国宝建造物であり，三宝院の庭園は特別名勝である。このほか 9 棟 1 基の建造物が重要文化財に指定され，数々の「建築」と「庭園」が国の宝となっている。そこで登録書には，平安時代前期を代表する資産として，大規模な勅願寺である醍醐寺が仁和寺とともにあげられている。

ところで,「醍醐水」という言葉を聞いたことがあるだろうか？これは，醍醐寺を開いた理源大師聖宝(しょうほう)が醍醐山に登った時，ひとりの翁が現れて，湧き水を飲み「嗚呼，醍醐味なる哉」と言い姿を消したという伝説が残っていて，この水が，上醍醐の准胝堂(じゅんていどう)の下に湧き出ているのである。そして，このことが醍醐の地名の由来となったともいわれている。

山科盆地の東側，旧奈良街道から醍醐山の山頂（標高 454m）にかけての広大な醍醐寺境内は，平地部の仁王門から山上の薬師堂まで約 2.3 キロ，歩くこと約 1 時間の距離であり，その面積 379ha がすべて世界遺産の区域である。これは 17 の構成資産のうち，比叡山・延暦寺に次いで 2 番目の広大な広さだ。

旧奈良街道から山道を 1 時間かけて登った先にある醍醐水は大変味わい深かった。この味は平安時代からずっと変わらないのだろう。

➢　世界遺産「古都京都の文化財」の特徴



➢　五重塔

➢　唐門

➢　上醍醐・五大堂

山と麓
国宝・サクラ
「醍醐味」哉

➢　醍醐水